

平成 17 年度

# 第 12 回おきなわ環境交流集会

## 事業報告書

沖縄県文化環境部環境政策課

## 第 12 回 おきなわ環境交流集会 事業報告書

### 1. おきなわ環境交流集会とは

県民、事業者、行政等の様々な人が参加し、環境についての意見交換や講演会などをおして双方の交流を図る機会として開催されているもので、今年で 12 回目を数える。

今年度は、県内子どもエコクラブの発足から 10 年目を迎える節目となることから、子どもエコクラブのこれまでの活動をふりかえり、今後の活動がさらに活性化することを目的に、県内の子どもエコクラブの初の集会を開催。互いの交流促進と情報・意見交換を図った。

### 2. 子どもエコクラブとは

小・中学生なら誰でも参加できる、環境活動クラブのこと。環境省が応援している。

平成 16 年度は、全国で約 4,200 クラブ、83,000 人の小・中学生が登録・活動を行った。沖縄県では 2005 年末時点で、38 クラブ・740 人が登録をしており、本島・離島で活発な活動が展開されている。

### 3. 県内における子どもエコクラブ一覧

(平成 17 年 12 月現在)

NO	市町村名	クラブ名	活動年数	会員	サブリーダー	グループの種類
1	那覇市	綾門A	2	10	1	子ども会
2	那覇市	綾門B	2	10	1	子ども会
3	那覇市	綾門C	2	10	1	子ども会
4	那覇市	綾門D	2	8	1	
5	那覇市	アースの会	2	4	1	近所や地域の友達
6	那覇市	エコレンジャー	1	7	1	子ども会
7	那覇市	エコレンジャー	1	9	1	子ども会
8	那覇市	エコレンジャー	1	3	1	子ども会
9	那覇市	エコレンジャー	1	14	1	子ども会
10	那覇市	エコレンジャー	1	12	1	子ども会
11	那覇市	うえまエコキッズ	1	9	5	近所や地域の友達
12	那覇市	イオンチアーズクラブ こどもエコJなはクラブ	3	13	2	
13	那覇市	E-COクラブ (イ-クラブ)	3	2	1	家族
14	那覇市	スーパーカブ	1	10	1	ガールスカウト
15	宜野湾市	愛星子どもエコクラブ	1	5	8	
16	浦添市	沢紙学童クラブ	4	48	3	学童クラブ
17	名護市	やんばるエコクラブ	1	4	1	近所や地域の友達
18	名護市	ブラックブラザーズ	1	3	1	学校のクラス(名護市立大宮小学校)
19	名護市	しぜんをまもろうクラブ	1	5	3	学校全校(県立桜野養護学校)
20	沖縄市	あげだ児童館クラブ	1	70	5	児童館や公民館のグループ
21	宮古島市	下地地区子どもエコクラブ	2	5	1	下地小学校
22	宮古島市	下地地区子どもエコクラブ	2	13	1	"
23	宮古島市	下地地区子どもエコクラブ	2	5	1	"
24	宮古島市	池間中学校	2	16	11	池間中学校
25	国頭村	安田小学校エコクラブ	1	8	5	安田小学校
26	恩納村	OMRC子どもエコクラブ	6	21	32	近所や地域の友達
27	伊江村	東江上エコクラブ	1	22	1	子ども会
28	嘉手納町	やどかりクラブ	3	10	4	近所や地域の友達
29	北谷町	北谷プロジェクトワイルド	1	14	2	北谷小学校
30	北中城村	北中っ子クラブ	5	165	5	学校
31	西原町	西原町子ども会民謡サークル	4	43	4	子ども会
32	西原町	ボーイスカウト西原一団	3	17	1	ボーイスカウト
33	西原町	小波津っ子エコクラブ探偵団	2	11	8	子ども会
34	西原町	西原ハイツ子ども会	1(3)	49	21	子ども会
35	与那原町	あかぎ児童館子どもエコクラブ	4	21	22	児童館
36	南大東村	南大東村まるごと館子供スタッフ	1	42	4	
37	竹富町	古見子どもエコクラブ 「キバリョー・ファーマー」	10	7	2	近所や地域の友達
38	竹富町	西表ヤマネクラブ	9	15	3	学校(上原小学校・船浦中学校)
	計			740	168	

## 第 12 回 おきなわ環境交流集会 事業報告書

### 4. 開催日時

平成 17 年 11 月 26 日（土）・27 日（日）

### 5. 主催

沖縄県

### 6. 会場

沖縄こどもの国（沖縄市胡屋）  
おきなわアジェンダ 21 県民環境フェア内

### 7. 参加者

11 月 26 日（土）

沖縄こども環境大臣 3 名  
こどもエコクラブ会員 53 名  
こどもエコクラブサポーター 18 名

11 月 27 日（日）

上記の参加者に加え、一般来場者およそ 250 人

### 8. 事業受託

特定非営利活動法人 ホールアース研究所  
（代表理事 広瀬敏通）

### 9. プログラム概要

11 月 26 日（土）

#### 沖縄こども環境大臣による活動宣言

2005 年 10 月に開催された「沖縄こども環境大臣サミット」に欠席した、伊是名島・水納島・渡嘉敷島の 3 人のこども大臣が登場。それぞれの島で守っていききたいものやそれが抱える問題、自分がどんな活動をしていききたいかが力強く発表された。

3 人の発表内容に関する詳細は、「沖縄こども環境大臣サミット事業報告書」を参照のこと。

#### 「こどもエコクラブ」 活動報告会

合計 9 つのクラブが、それぞれの活動やそこで気づいたことなどを発表。和やかな雰囲気の中、クラブ運営における問題点や、活動の中で何が一番楽しかったかなど、交流集会ならではの質問も飛び交った。



発表する側も聞く側も真剣

## 第 12 回 おきなわ環境交流集会 事業報告書

11月27日(日)

### 自然体験プログラム「丸太切りジグソー」

「おきなわアジェンダ 21 県民環境フェア」の中に、特設会場を設置。杉の丸太を子ども自らのこぎりで輪切りにし、マジックで好きな絵を描いた後に木槌で割って、オリジナルのジグソーパズルを作るという体験プログラム。こどもエコクラブ会員・一般来場者も含め、およそ250人が参加した。県民環境フェアにおいて、最も活気にあふれた空間のひとつとなり、開園から日没後まで延べ8時間、列が途切れることがなかった。



活動報告の前に体を動かすゲームで打ち解けあい



参加者のほとんどが親子連れ



こども環境大臣とこどもエコクラブの交流も促進

## 第12回 おきなわ環境交流集会 事業報告書

### 10. 活動報告の内容

団体名

#### 小波津っ子エコクラブ探偵団

団体設立年月日

・平成16年

現在の会員数

・11名(サポーター8名)

所属

・中頭郡西原町(子ども会)

当日の参加会員

・4名(サポーター:1名)

参加者への提案

『揚げ物に使った油はスポンジのようなものに含ませて捨てている』『ナベや食器の油は拭いてから洗っている』『合成洗剤を使わないで、全部石けんを使用している』など、普段の生活での活動も大切であるとし、沖縄の海がいつまでもきれいであって欲しいと締めくくった。

発表の概要

当日の発表は、元気いっぱいの女の子4名で行われた。

空き缶・空き瓶の回収

地域の美化や遊具の修理を目的に、毎月第3土曜日に空き缶・空き瓶集めを行い、資金集めをしている。

育樹祭

地域の育樹祭に参加。樹の根元に肥料を入れ、大きくなった将来の樹を想像した。

川の水生生物調査

名護市・源河川と西原町・森川川で水生生物調査を実施。源河川ではトビケラやカニなど、比較的きれいな川に生息する生物を見つけたのに対し、森川川では、タニシやヒルなどを発見。生息する生物の違いから、身近な河川である森川川が生活排水で汚れていることを実感した。



みんなでカラフルにまとめた紙面



少し照れながら でも自信を持って

## 第 12 回 おきなわ環境交流集会 事業報告書

団体名

### 北谷小プロジェクトワイルド

団体設立年月日

・平成 17 年

現在の会員数

・18 人（小学校 2 生～小学校 6 年生）

所属

・中頭郡北谷町（北谷小学校）

当日の参加会員

・5 人（サポーター：3 人）



なにやら他人の発表内容が気になる様子・・・

### 発表の概要

当日の発表は北谷小学校の男子生徒 5 名で行われた。

#### 北谷プロジェクトワイルドについて

北谷小学校所属の団体である北谷プロジェクトワイルドは、虫観察・植物観察・手作りハガキ作成教室・映画鑑賞による平和学習・水質検査等、とても幅広い活動を展開している。

#### 石川岳ウォークについて

平成 17 年 10 月 1 日に石川岳ウォークを実施。昆虫博士として有名な「ゲッチョ先生」こと盛口満先生といっしょに歩き、たくさんの発見をしたようだ。

ドングリの実を食べたり、森の中の川でミズスマシやヨシノボリを見つけたりと自然を満喫。また、途中の水質調査では水のきれいさを実感した。

発表の最後に、歩きづらい部分はとても大変であったが、広場で食べたお弁当や湧き水を飲んだことがとても印象に残っていると感想を述べてくれた。



石川岳ウォークで見つけたたくさんの生き物たち

## 第12回 おきなわ環境交流集会 事業報告書

団体名

### OMRC子どもエコクラブ

団体設立年月日

・平成12年

現在の会員数

・21人(サポーター:32人)

所属

・国頭郡恩納村(地域の子どもの集まり)

当日の参加会員

・7人(サポーター:5人)

10月:リーフウォーク

磯歩きを行った。ナマコなどのいろんな生物を見つけた。

今後やってみたい活動として、ホエールウォッチングや鍾乳洞体験など、ダイナミックな自然体験も候補に挙がっているようだ。

設立されてからの年数も5年を超えているだけに、実に様々な自然体験活動を行っている。参加者にとっては、OMRCの幅広い活動内容に大いに刺激を受けたようだった。

### 発表の概要

これまでに行ってきた活動を月別に細かく発表した。

4月:ライフセービング体験

初めての活動であった。ごみ拾い、ビーチフラッグ、レスキューボードを体験した。

5月:山登り

ネイチャービンゴを行いながら、山頂を目指した。

6月:海人体験

漁の体験を行った。網のポイントに行き、網を引き上げ、その後、取れた魚を食べた。

7月:水質調査

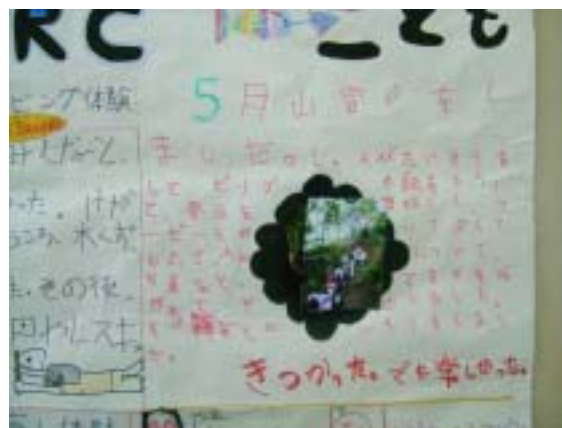
川の水質調査を実施。河川がかなり汚れていることを実感した。

9月:海の実験号

泳げる水族館において、シュノーケリング体験をした。



壁新聞に思わず見入ってしまうね



イラストや写真からも楽しい雰囲気が伝わってきたよ

## 第 12 回 おきなわ環境交流集会 事業報告書

団体名

### エコレンジャー

団体設立年月日

・平成 17 年

現在の会員数

・45 人（サポーター：1 人）

所属

・那覇市（子ども会）

当日の参加会員

・25 人（サポーター：5 人）

マイバックについて  
スーパーのレジ袋など、不要なものはもらわない。

洗い物について  
カレーなどを作った際、鍋についたルウをゴムベラで削ぎ落とす。また、洗剤でなく石けんを使用する。

これらを行うことで、ごみを減らすことができると提案、また、実際に効果があったと、成果を発表した。

身近な話題だけにイメージも沸きやすく、すぐに実践に移せることに興味を示した参加者も多かった。

団体名

### スーパーカブ

団体設立年月日

・平成 17 年

現在の会員数

・10 人（サポーター：1 人）

所属

・那覇市（子ども会）

当日の参加会員

・3 人（サポーター：1 人）



### 発表の概要

那覇市にあるこどもエコクラブ・『エコレンジャー』と『スーパーカブ』による合同発表。

### 買い物のポイント

普段、何気なく商品を買う際でも、栽培・製造された産地、ラップやトレイの有無などをチェックし、環境に配慮した行動をする。

大きな文字でインパクトは十分



## 第 12 回 おきなわ環境交流集会 事業報告書

団体名

### あかぎ児童館こどもエコクラブ

団体設立年月日

・平成 14 年

現在の会員数

・21 人（サポーター22 人）

所属

・島尻郡与那原町（児童館）

当日の参加会員

・15 人（サポーター：5 人）

ーをもらうことができる。5 分の作業でエコマネーを手にすることができるなど、実際の社会と同様の仕組みを作っている点がおもしろい。

ハローワーク

エコマネーがなくなった場合は、ここで働き口を探すことができる。

銀行

エコマネーを手にすることができる。

その他、ボーリングや射的・段ボール迷路など、遊んだらその分はもちろんエコマネーを支払う仕組み。楽しみながら環境について考えるという、こどもエコクラブ活動の真髄を見た気がした。

### 発表の概要

あかぎ児童館こどもエコクラブでは、イベントとして行った『あかぎクルクル町』について発表した。

クルクル町という循環型社会を想定し、リサイクルや環境への配慮を考えながら、エコロジーな町を仮想体験した。

内容としては、リサイクル品を使った商品を作ることで（労働）エコマネーをもらうことができ（収入）そのエコマネーで遊んだり、買い物ができるというイベント。

当日は 350 名余の親子が参加し、大成功だったそうだ。琉球新報にも記事が掲載され、社会的なメッセージにもつながったに違いない。

以下に、『あかぎクルクル町』の町の機能をまとめた。

手づくり工房

ここでは、かぼちゃのブローチ・ペットボトルビーズなどの作品を作って売ること、エコマネ



自分たちが楽しむことが一番大切



## 第 12 回 おきなわ環境交流集会 事業報告書

団体名

### あげだ児童館クラブ

団体設立年月日

・平成 17 年

現在の会員数

・70 人（サポーター：5 人）

所属

・沖縄市（児童館や公民館のグループ）

当日の参加会員

・0 人（サポーター：1 人）



さしずめ希望と不安が入り交ざった気持ちかな

### 発表の概要

平成 17 年に活動をスタートしたばかりの団体。生まれたてのため、活動報告というよりは今後の展開に向けた決意表明の内容となった。

今回の機会で他団体の活動内容はもちろん、それに付随する課題など、様々な情報を入手でき、大きな収穫があったようだ。

今後の活躍に期待したい。



先生の熱い気持ちにみんなが拍手で応えました



参加者の質問に耳を傾ける

## 第 12 回 おきなわ環境交流集会 事業報告書

団体名

### 古見こどもエコクラブ 「キバリヨーファーマー」

団体設立年月日

・平成 7 年

現在の会員数

・7 人 ( サポーター : 2 人 )

所属

・八重山郡竹富町 ( 近所や地域の友達 )

当日の参加会員

・2 人 ( サポーター : 1 人 )

### 発表の概要

古見こどもエコクラブ「キバリヨーファーマー」の発表は、はるばる西表島から訪れてくれた中学生 2 人により行われた。

フィールド：古見について

那覇から 360 km 南西にある島 - 西表島の東部にあり、西表島で最も高い山 - 古見岳 ( 469m ) のふもとに位置する。マングローブ林の発達したシイラ川、マイラ川と 2 つの川にはさまれ、豊かな自然に育まれた伝統文化や祭事 - 豊年祭や結願祭 - があり、人と自然が長い島の歴史の中で共に生きてきた西表島でもっとも古い歴史を持つ静かな集落。

西表島には、地球上でこの島にしかないイリオモテヤマネコをはじめ、カンムリワシ、ヤエヤマセマルハコガメ、リュウキュウキンバトなど、天然記念物や希少な生き物が暮らしている。

「キバリヨーファーマー」について

古見のこども達 - 小学生 6 人・中学生 2 人の小さなクラブだが、活動を初めて 10 年が経ち、県

内のこどもエコクラブの中では最も長い歴史を持つクラブのひとつ。今までに 50 人あまりが参加した。

テーマは、『西表島の身近な自然を、知ろう！遊ぼう！守ろう！』。毎月、ミーティングを実施し、リーダーを中心にどんな活動をするかを決めている。

活動内容

幅広く、かつ深い活動を実施している。

・春のうりずん観察会

干潟やマングローブ林での生きもの観察。

・くんのーら作戦

海辺の漂流物の観察と清掃活動を実施。その他にも、サガリバナの観察、オカガニの放卵観察、バギナカーの湧水観察・水質調査などを実施している。

・ホタル観察会

ここ 10 年間、イリオモテボタルの生息調査を続けている。近年は、オオシママドボタルやヤエヤマボタルにも観察の対象を広げている。



県内のクラブが真似したい先進事例が次々と登場

## 第 12 回 おきなわ環境交流集会 事業報告書

### ・ヤマネコ観察会

イリオモテヤマネコの生育環境や行動を調べたり、フンの分析などから何を食べているかを調査している。

### ・リースやかごづくり

山から、カズラや材料を集めて、クリスマスリースや、かごづくりを行っている。

### ・イリオモテヤマネコ調査

(足跡調査・自動撮影機体験・フン分析・チャレンジクイズ)

当日は 5~6 人のグループに分かれ、屋内での観察会をした。この他にフィールドワークも予定されていたが、雨天のためあえなく中止。イリオモテヤマネコを見つけることはできなかったが、少し近づけたような気がして嬉しかったと感想を述べた。

### ・オカガニの産卵観察会

私たちの住む、近くの浜でオカガニの産卵を見ようと、満月の日にちを調べ、夜の 8 時頃から近く浜に下りて観察会をした。

### ・イリオモテボタル生息調査

夜の 7 時頃までしか光らない。全員で長袖、長靴の完全装備で実施した。

「キバリヨーファーマー」は、平成 10 年度と 12 年度『こどもエコクラブ全国フェスティバル』において、沖縄県代表として活動報告を行っている。また、福岡市で開催される『こども地球環境会議』において、平成 14 年度と 17 年度の 2 回、九州地区の子ども達と意見交換や観察会などの交流も行っている。こうした幅の広い活動が評価され、平成 17 年度沖縄県環境保全功労者として表彰を受けた。

県内こどもエコクラブのお手本とも言える内容に、参加者からは感嘆の声が挙がっていた。



立派な表彰状をもらいました



来年はどこのクラブが表彰されるかな

## 第 12 回 おきなわ環境交流集会 事業報告書

団体名

### 下地地区こどもエコクラブ

団体設立年月日

・平成 16 年

現在の会員数

・18 名 ( サポーター : 1 名 )

所属

・宮古島市 ( 下地小学校 )

当日の参加会員

・0 名 ( サポーター 0 名 )

離島クラブのため壁新聞での参加

・どうすればいいのかな？

海に来るときはビニール袋を持つ。

ルールやきまりを守る。

1 週間ごとにごみ拾いをする。

看板の設置

・ごみを捨てないように

・ごみをなくすために

・ルールやきまりを守るために

以上の理由から、看板を設置した。

宮古清掃施設組合見学

・感想

臭かった・空き缶が多い・雑誌があった

日用品が多い・ごみを燃やした跡があった

発表の概要

下地地区こどもエコクラブは、宮古島の団体のため、会員の出席はなかったが、壁新聞での活動報告で、その存在感を存分にアピールした。

ビーチ清掃

清掃を行い、漂着ごみについて考えた。

・どんな物が流れてきたかな？

空き缶・ペットボトル・発泡スチロール

空容器・ハンガー・靴・ビニール・浮き

シーグラス・木材・スプレー缶・海草・

やしのみ などなど

・どこから来たのかな？

中国・アメリカ・フィリピン・台湾・韓国

大阪、東京

・なんで流れてきたのかな？

海に来た人が捨てた。

きまりを守らない人が捨てた。

・日々何気なく集積場に出しているごみはどのくらいの量になるの？

1 日 1 人当たりのごみの量は、約 1.0kg。下

地町の人口は、3300 人。すなわち、1 日当

たり 3 トン以上のごみがでる。



紙面いっぱいにとめてくれました

## 第12回 おきなわ環境交流集会 事業報告書

ごみが増えると何が問題になるのか？

私たちは毎日何気なくごみを出し続けているが、そのごみが、私たちの知らないところで生活や環境を脅かしている。

下地町では、昨年ごみ処理をするのに 5100 万円、収集するのに 540 万円の費用がかかっている。このほかに不法投棄ごみ処理費として、148 万円、合計で約 5800 万円の費用がかかっている。1 人当たりで計算すると、年間で約 7000 円も必要。

ごみを減らすために私たちができること

- ・ごみをつくらない生活をしましょう。  
ごみを捨てる時『もったいない』と思う気持ちを養う。買い物をする時は『本当に欲しいのか』、『必要なのか』、『長く使えるのか』を考える。安いからと買ってしまつと、欲しくなかつたり、必要なかつたり、すぐに壊れてしまうなんてことはありませんか？

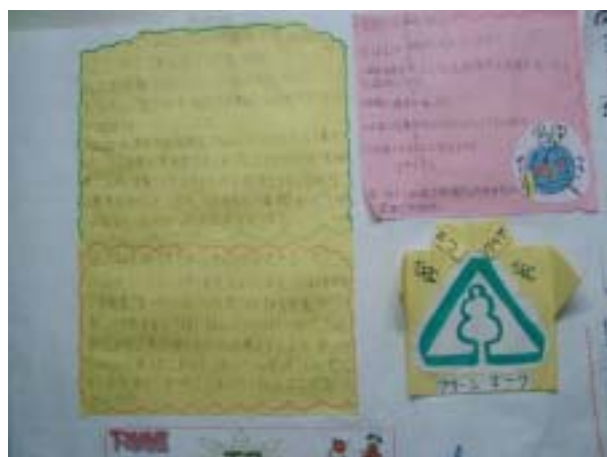
- ・ごみをださない生活をしましょう

シャンプーや洗剤などは、中身だけ入れ替えれば、ポンプ式のボトルも『ごみ』にならず繰り返し使うことができる。また、フリーマーケットやバザーに参加し、必要なくなった物でも利用する。

ごみに関して、具体的な数字データも盛り込みながら分かりやすくまとめてくれた。「こういう課題ありますよ」という問題提起だけでなく、「こんなことができますよ」という提案にまで踏み込んでおり、こどもはもちろん、大人にとっても、とても読み応えのある紙面という印象のようだ。



1人1人の感想にもデザインの工夫が



夏の「自由研究」を彷彿させる調査報告でした

## 第 12 回 おきなわ環境交流集会 事業報告書

団体名

### 池間中学校エコクラブ

団体設立年月日

・平成 16 年

現在の会員数

・16 名（サポーター11 名）

所属

・宮古島市（池間中学校）

当日の参加会員

・0 名（サポーター0 名）

離島クラブのため壁新聞での参加

活動宣言

会員達は日頃から環境問題について考えて行動するよう心がけ、以下の「環境保全宣言」を掲げている。

- 1 私たちはポイ捨てをしません。
- 2 私たちは自分のごみを持ち帰ります。
- 3 私たちは節電・節水。省エネを心がけます。
- 4 私たちは食べ物を大切にします。
- 5 私達は公共の場を汚しません。

池間中からは、平成 17 年度「沖縄こども環境大臣」が選出されており、10 月に行われた「こども環境大臣サミット」の報告文も掲載されていた。

### 発表の概要

下地地区こどもエコクラブ同様、宮古島をフィールドとして活動を行っている団体。クラブの活発な活動を、『エコタイムス』と名づけられた壁新聞でアピールした。

### 発表会の開催

池間中学校エコクラブは、総合的な学習における取り組みのまとめとして、平成 17 年 10 月 20 日に『環境（エコ）探求学習発表会』と称し、発表会を設けた。

### 発表会のようす

発表会では、中学生の他、保護者、小学生、地域の方々を招いた。

### 発表会後の催し

発表会の後、手作りカルタを参加者と楽しみ、それを後日、小学校へプレゼントした。カルタの内容は、環境をキーワードにしており、小学生のみんなにも環境の大切さを分かってもらおうという気持ちが込められている。



ら

乱雑す  
ごみの山見て  
心に誓う  
ごみなき社会は  
僕らがつくる！

子どもたちの思いのつまった秀作 50 音環境カルタ



## 11. 活動報告のふりかえり

### <良かった点>

- ・ 県内のこどもエコクラブの交流および情報・意見交換を行う初めての場。活動年数や規模も様々に異なるクラブが集まったことで、お互いにいろいろな刺激を受けていた。
- ・ 活動を継続するうえで、困っていることや楽しかったことなど、具体的な感想や質問が飛び交った。特に活動年数の浅い団体にとっては、イメージを大いに膨らませることができたと思う。
- ・ 壁新聞は、手作り感にあふれているため、それぞれの団体のカラーや雰囲気十分に伝わる。また壁新聞を制作することは、子どもたちにとっても日頃の活動を見つめなおす絶好の機会になったようだ。

### <改善すべき点>

- ・ 屋外の会場であったが、マイク等の音響設備がなく、すべて自声での発表となった。周囲の雑音と重なり、聞きづらい場面もやや見受けられた。
- ・ イスの確保が難しかったことから、参加者はブルーシートの上に座りながら長時間、発表を聞く体制となった。結果として、腰への負担や集中力の低下につながったと思う。
- ・ 事前に活動に関する資料が配布されていると、理解の一助になる。事前に壁新聞をじっくり読む時間は限られており、どうしても発表を「聴く」ことに終始してしまいがち。より深い理解のためには、「見る」「体験する」といった工夫が必要。



発表と壁新聞をいかにリンクさせるかも重要なポイント



キーワードを大きく書くという手法は分かりやすい



後ろからだ残念ながら壁新聞の内容が見えない・・・



## 12. 自然体験プログラムの内容

体験プログラム名

### 丸太切りジグソーパズル

体験の流れ

のこぎりで杉の丸太を輪切りにする。  
輪切りの両面にマジックで好きな絵を描く。  
木槌を使い、輪切りをいくつかのピースに割っていく。  
オリジナルのジグソーパズルの出来上がり。  
両面の絵で、2通りのジグソーパズルを楽しむことができる。

体験プログラムのねらい

のこぎりを手にする機会の少ない子どもたちにとっては、のこぎりを自分の力で操りながら木を切るだけでも大きな挑戦。子どもの持つ冒険心・好奇心をくすぐることにつながる。

木を見て木に触れ、木屑から出る香りを嗅ぎながら、のこぎりの音や手に伝わる振動を楽しむ。5感を通して木と親しみ、木への関心を高めてもらうことを目的としている。

また、そこから生み出されるジグソーパズルは木と継続的に触れ合う機会を生み出すことができる。テレビゲームにどっぷりと浸かっている現代の子どもたちに対して、自然と遊ぶことのおもしろさ・大切さを感じてもらおう。そんな思いから、本プログラムを実施した。



さぁお気に入りのキャラクターを描こうかな



木槌を使うとおもしろいようにきれいに割れます



世界にひとつだけのオリジナルジグソーパズル完成！

## 第 12 回 おきなわ環境交流集会 事業報告書

### 体験プログラムの様子

およそ 250 人を数えた参加者のほとんどが親子連れ。下は幼稚園に通う児童から上は高校生まで、子どもの年齢層は非常に幅広かった。

当初の想定どおり、のこぎりで木を切った経験のない子どもたちがほとんど。相手の年齢や体力に応じて、スタッフが予め 3~5 割程度まで切り込みを入れ、その後は子どもたちが時に親の助けを借りながらも、自らの力で切り落とすという達成感を味わう。会場には常に子どもたちの歓声が響き、「県民環境フェア」の中でも独特の雰囲気醸し出していたようだ。

中には、1人で2回3回と挑戦する子どもたちも。切る 描く 割るという単純な遊びではあるが、子どもの心を惹きつける本プログラムの魅力と重要性を、改めて実感する結果となった。



のこぎりを見つめる真剣な眼差し



子どもたちの芸術性に驚かされます



なかなか上手に割れないよぉ



およそ 8 時間 体験待ちの列が途切れませんでした

---

平成 17 年度 第 12 回おきなわ環境交流集会事業報告書

作成：特定非営利活動法人 ホールアース研究所  
代表理事 広瀬敏通

本部：静岡県富士郡芝川町下柚野 165  
TEL:0544-55-0152 FAX:0544-67-0567  
沖縄事務所：沖縄県那覇市銘苅 3-2-6-302  
TEL:090-4236-9275 FAX:098-867-7555  
Mail:okinawa@wens.gr.jp